

『誰が』そして『誰に』

著者	佐々木 哲夫
雑誌名	大学礼拝説教集
号	17
ページ	40-48
発行年	2013-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00024640/

『誰が』そして『誰に』

宗教部長

佐々木 哲夫

イザヤ書、五三章一節〜五節

1 わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。

主は御腕の力を誰に示されたことがあろうか。

2 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように

この人は主の前に育った。

見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

3 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ

多くの痛みを負い、病を知っている。

彼はわたしたちに顔を隠し

わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

4 彼が担ったのはわたしたちの病

彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに

わたしたちは思おもっていた

神かみの手てにかかり、打うたれたから

彼かれは苦くるしんでいるのだ、と。

5 彼かれが刺さし貫つらぬかれたのは

わたしたちの背そむきのためであり

彼かれが打うち砕くだかれたのは

わたしたちの咎とがのためであつた。

彼かれの受うけた懲こらしめによつて

わたしたちに平和へいわが与あたえられ

彼かれの受うけた傷きずによつて、わたしたちはいやされた。

ヨハネによる福音書、第一章一四―一八節

14 言ことばは肉にくとなつて、わたしたちの間に宿やどられた。わたしたちはその栄光えいこうを見みた。それは父ちち

の独ひとり子ごとしての栄光えいこうであつて、恵めぐみと真理しんりとに満みちていた。15 ヨハネは、この方かたについ

て証あかしをし、声こえを張はり上げて言いつた。「『わたしの後あとから来こられる方かたは、わたしより優すぐれて

いる。わたしよりも先に^{さき}におられたからである』とわたしが言ったのは、この方^{かた}のことである。』¹⁶ わたしたちは皆、この方^{かた}の満ちあふれる豊かさ^{ゆたかさ}の中から、恵み^{めぐみ}の上に、更に恵み^{めぐみ}を受けた。¹⁷ 律法^{りっぽう}はモーセを通して^{とお}与えられたが、恵み^{めぐみ}と真理^{しんり}はイエス・キリストを通して^{とお}現れたからである。¹⁸ いまだかつて、神^{かみ}を見た者^{もの}はいない。父^{ちち}のふところにいる独り子^{ひとりご}である神^{かみ}、この方^{かた}が神^{かみ}を示されたのである。

＊

礼拝堂に飾られているローソクやツリーは、イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスの際を告げています。約二千年前の人物である洗礼者ヨハネも、イエス・キリストの降誕を告げています。本日開きました新約聖書ヨハネ福音書一章一五節に彼の告げた言葉が記されています。

ヨハネは、この方^{かた}について証^{あか}しをし、声を張り上げて言った。『わたしの後から来られる方は、わたしより優れている。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方^{かた}のことである。

洗礼者ヨハネは、イエス・キリストについて、二つのことを証言しています。その第一は、『わたしの後から来られる方は、わたしよりも先におられた』という不思議な証言です。洗礼者ヨハネの父親はザカリヤです。ザカリヤに天使ガブリエルが現れて、彼の妻エリザベトに男の子、つまり、洗礼者ヨハネが与えられることを告げます。やがて、その言葉通り、ザカリヤの妻は子を宿します。その六ヶ月後、天使ガブリエルは、ナザレの町にいたマリヤにも現れます。そして、マリヤにも男の子が与えられることを告げます。イエス・キリストの誕生を告げるいわゆる受胎告知です。

エリザベトとマリヤは、親戚関係ですから、彼女たちの子供も親戚関係になります。すなわち、洗礼者ヨハネとイエス・キリストは、年齢が半年違いの、小さいときから互いに良く知っている仲と思われます。無論、洗礼者ヨハネがきっちり半年年上です。その洗礼者ヨハネが、イエス・キリストの到来について「わたしの後から来られる方は、わたしよりも先におられた」と証言したのです。「後」とか「先」という表現は、時間的な意味を込めての表現ですから、まことに不思議です。というのは、イエス・キリストがマリヤの胎内で人間として形造られる以前から、すでに存在していたという証言になるからです。人としてこの世に到来する以前において、既に、イエス・キリストは、存在していたということです。

若干、話の内容を整理したいと思います。イエス・キリストという名前は母マリアの胎において人として形造られた存在を指しての名前です。他方、人となる以前に存在していたイエス・キリストを、イエス・キリストと呼んでは混乱しますので、福音書は、一四節で「言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた」と説明しています。すなわち、イエス・キリストの到来は、永遠の存在者である言がこの世界に到来した出来事、無限の世界が有限の世界である私たちの歴史に入り込んできた出来事であると証言しているのです。

洗礼者ヨハネが、イエス・キリストについて告げた第二のことは、「わたしの後から来られる方は、わたしより優れている」という証言です。洗礼者ヨハネは、決して、優れていない人物ではありませんでした。マタイ福音書に「エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた」（三・五六）と記されているとおり、洗礼者ヨハネは人々から絶大な支持を集めていたのです。むしろ、優れた人物だったのです。その彼が「わたしの後から来られる方は、わたしより優れている」と証言したのでした。

ヨハネ福音書は、イエス・キリストの優れていることを一四節でさらに具体的に「恵みと真理とに満ちていた」と説明しています。恵みは、慈悲もしくは慈善と言いましうか、優しく慈し

むことであり、まさに平和の状態を意味します。しかし、それは、真理をともなつてのことであると語られています。真理は正義でもありますから、平和と正義が両立する出来事、それがイエス・キリストの到来において実現すると証言されているのです。

＊＊

さて、ヨハネ福音書は、イエス・キリストの到来について、「言葉が肉となつて、私たちの間に宿られた」と表現し、永遠の昔から存在する方であつたことを明らかにしました。永遠の昔から存在する方ですから、その方の到来を、旧約聖書の預言者たちも、同じように、待ち望んでいました。しかし、預言者たちは、かなり昔のことですから、洗礼者ヨハネのようにはつきりと目に見える形でその到来をイメージできたわけではありません。むしろ、言がこの世に肉をまとして到来する姿を、別のイメージをもって預言しました。

例えば、本日、開きましたイザヤの預言がそれです。イザヤは、イエス・キリストの到来を、栄光に輝く姿ではなく、真逆の姿をもって表現しました。すなわち、苦難を受ける僕の姿として預言したのです。

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の前に育った。見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない。³彼は軽蔑され、人々に見捨てられ、多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し、わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

新約聖書の人々にとって、このイメージは、イエス・キリストの十字架の出来事として、目に見える形で実現するのですが、預言者イザヤにとってのイメージは、それほど明瞭となりませんでした。しかし、苦難する僕の姿は、イエス・キリストの十字架の姿を、それとわかるように示していたのです。

⁴彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに、わたしたちは思っていた、神の手にかかり、打たれたから、彼は苦しんでいるのだ、と。⁵彼が刺し貫かれたのは、わたしたちの背きのためであり、彼が打ち碎かれたのは、わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

預言者イザヤは、イエス・キリストの十字架が、恵みと真理の実現、平和と正義の実現であることを言い当てていたのです。

さて、現代に生きる私たちは、イエス・キリストの到来から二千年後の時代に生きています。新約聖書も旧約聖書も手にしており、しかも、母国語で詳細に読み取ることができる自由な時代に生きています。その私たちに、イザヤの預言の言葉は、かすむこともなく、消し去られることもなく、むしろ、鋭い力をもって問いかけてきます。その問いとは、イザヤ五三章一節「わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるうか」です。

もう少し直訳しますと、次のようになります。最初の問いかけ、「わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか」は、「誰が、わたしたちが聞いたことにアーメンというか」です。アーメンという言葉が使われているのです。アーメンは、本当だ、確かだ、信頼するという同意表明の言葉です。第二の問いかけ「主は御腕の力を誰に示されたことがあるうか」は、「主ご自身の働きが誰の上に具体化されたか」です。「誰が」という疑問詞は、念押しのような問いかけですから、さらに分かり易く言い換えをしますと、次のようになります。

わたしたちが聞いたことをみんなに知らせたが、それにアーメンという者は、いないかもしれない。しかし、わたしたちが聞いたことは、確かであつて、信頼できることなのだ。

神の力が この人に表れたと思えないかもしれないが、他でもない、この人に主の御業が表れたのだ。

永遠に存在する言が肉をまとい、時空の制約を受ける私たちの歴史のなかに到来した出来事が、クリスマスです。アーメンとの言葉をもつて受け入れたいと思います。